

平成30年度

相双地域医療体験研修

平成30年8月7日（火）～9日（木）

実施報告

福島県相双保健福祉事務所

目次

実施要領	1
研修協力機関	3
研修1日目（8月7日）	4
研修2日目（8月8日）	6
研修3日目（8月9日）	9
参加者アンケート	10
参加者の体験レポート	11

実施要領

1 研修の目的

東日本大震災により県内で最も大きな被害を受けた相双地域の医療や復興の現状について、医療機関や被災地の視察及び地域住民との交流等を通して、理解を深めてもらう。

2 開催日

平成30年8月7日（火）～9日（木）〔2泊3日〕

3 対象者

地域医療に関心を持つ医学部学生 12名

4 研修内容

(1) 地域医療等の現場視察・事例検討

現場視察を通して、被災地における医療・介護・福祉等の現状と課題等について学ぶ。

〔研修先：南相馬市立総合病院、特別養護老人ホーム梅の香、南相馬市社会福祉協議会、南相馬市地域包括支援センター、南相馬市立小高病院、福島県ふたば医療センター附属病院〕

(2) 医師や臨床研修医等との懇談

医師や臨床研修医等から、地域医療に対する考え方や体験談など生の声を聞き、意見交換を行う。

〔研修先：南相馬市立総合病院、南相馬市立小高病院、福島県ふたば医療センター附属病院〕

(3) 地域住民との交流

地元へ帰還した被災者等との交流を通して、被災地の現状について理解を深める。

〔研修先：南相馬市社会福祉協議会の健康サロン〕

(4) 地域視察

被災地の現状と復興への取組状況を視察し、相双地域への理解を深める。

〔研修先：訪問先所在市町村（通過町含む）：飯館村、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町〕

(5) 課題研究・発表

あらかじめ提示した課題について研究する。また、研修を通して学んだことや考えたことをまとめ発表する。

5 宿泊場所

双葉屋旅館（南相馬市）、Jヴィレッジ（楡葉町）

6 集合場所

福島駅西口、福島県立医科大学

7 参加費

集合場所からの旅費は県が負担する。

日程表

月日	時間	内容	場所	備考
8/7(火)	9:10 ~ 9:20	集合・出発	福島駅西口	
	9:20 ~ 9:40	移動	福島市内	
	10:00 ~ 11:00	研修	福島県立医科大学 4号館2階 第5講義室	
	11:00 ~ 12:30	移動	福島市→南相馬市	
	12:30 ~ 13:30	昼食	農家民宿 いちばん星	
	13:30 ~ 14:00	移動	南相馬市内	
	14:00 ~ 17:00	研修	南相馬市立総合病院	院長講話、臨床研修医との懇談、在宅医療の事例説明、院内視察
	17:00 ~ 18:00	視察	南相馬市内	
	18:00 ~ 20:00	医師との懇談	ニューさいとう	
	20:00 ~ 20:30	移動	南相馬市内	
	20:30	宿泊	双葉屋旅館	
8/8(水)	8:50 ~ 9:00	移動	南相馬市内	
	9:00 ~ 10:00	研修	特別養護老人ホーム梅の香	施設見学、介護従事者との懇談、利用者との交流
	10:00 ~ 12:30	研修	小高保健福祉センター	健康サロン参加住民との交流(血圧測定体験)、多職種連携の事例検討
	12:30 ~ 13:30	昼食	小高保健福祉センター	
	13:30 ~ 15:50	研修	南相馬市立小高病院	院内視察、院長講話、遠隔診療の視察、院内診療の視察
	15:50 ~ 16:10	移動	南相馬市→浪江町	
	16:10 ~ 16:20	研修	浪江町請戸見晴台	
	16:20 ~ 17:10	移動	浪江町→檜葉町	
	17:10 ~ 19:10	研修	Jヴィレッジ	KJ法演習、グループワーク
19:10	宿泊	Jヴィレッジ		
8/9(木)※	9:05 ~ 9:30	移動	檜葉町→富岡町	
	9:30 ~ 11:30	研修	福島県ふたば医療センター 附属病院	院内視察、カンファレンス視察、院長講話、訪問看護説明、退院調整説明
	11:30 ~ 11:45	移動	富岡町→大熊町	
	11:45 ~ 12:45	昼食	大熊食堂	
	12:45 ~ 13:00	移動	大熊町→富岡町	
	13:00 ~ 16:00	研修	福島県ふたば医療センター 附属病院	課題のまとめ・発表
	16:00 ~ 16:40	移動	富岡町→田村市	
	16:40 ~ 17:15	研修	みやこビスイーツゆい	
	17:15 ~ 18:25	移動	田村市→福島市	
18:25 ~ 18:40	解散	福島県立医科大学		

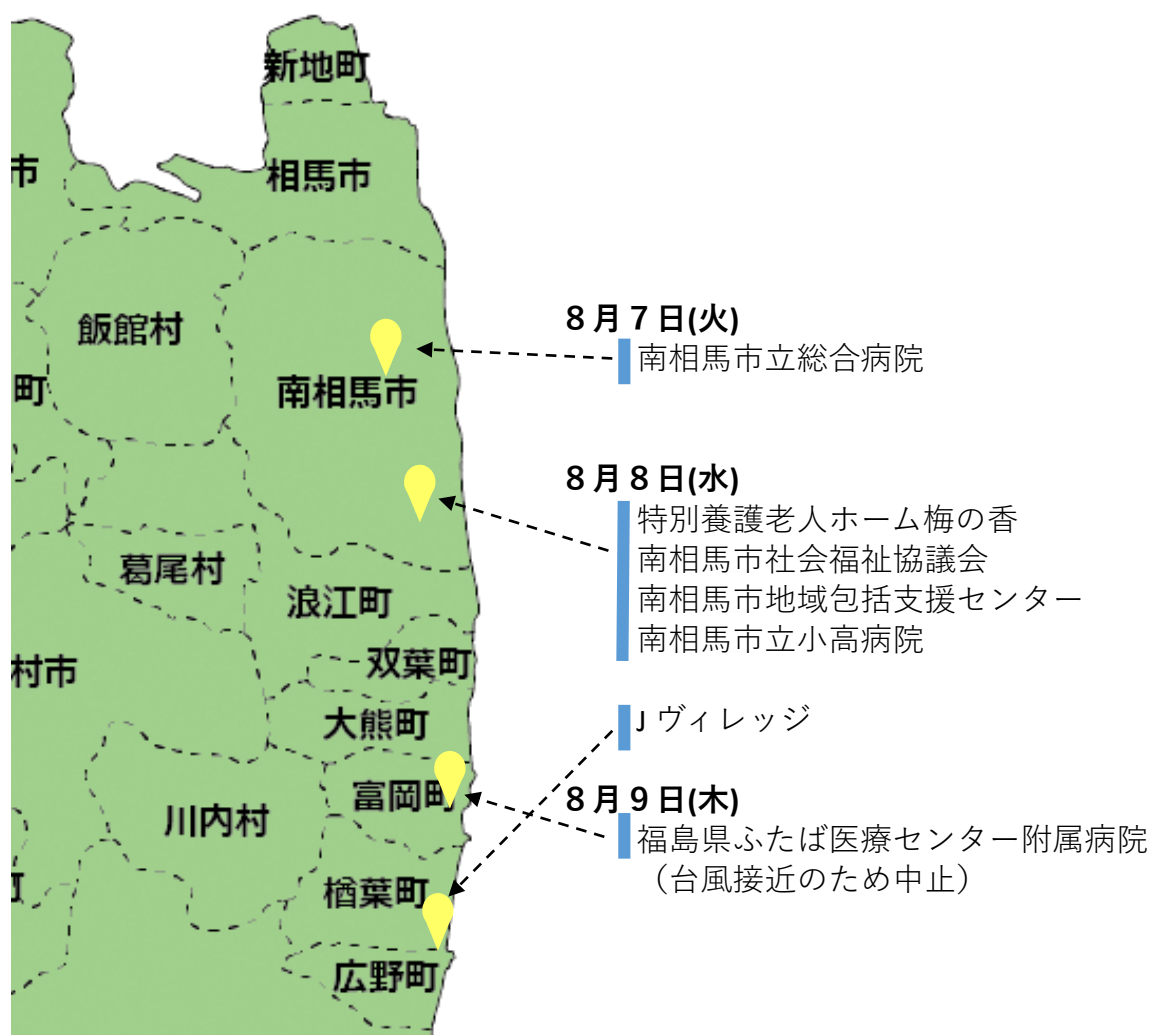
※ 8月9日(木)は、台風13号の影響のため日程を変更し、Jヴィレッジから福島県立医科大学へ移動、課題のまとめと発表を行いました。

研修協力機関

お忙しい中、本研修にご協力いただきありがとうございました。

研修指導

公立大学法人福島県立医科大学医療人育成支援センター



研修1日目（8月7日）

福島県立医科大学



地域医療体験研修開始にあたりオリエンテーションを行うとともに、翌日の健康サロンに備えて、血圧測定の実習をしました。

南相馬市立総合病院

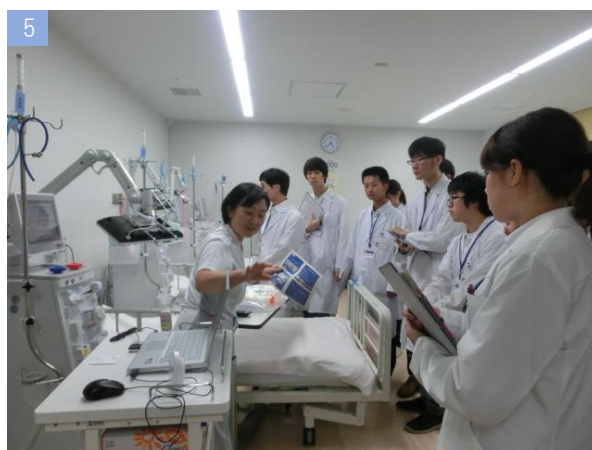


地域の基幹病院であり、急性期医療を担う南相馬市立総合病院に伺いました。

1 及川院長より相双地域の医療の現状等についてご講話いただきました。

2 神戸医師より在宅医療の事例についてご説明いただきました。

3 臨床研修医と懇談し、地域の病院で働く意義や、学生のうちに取り組むべきことなど伺いました。



4 ホールボディーカウンターを実際に体験しました。
5 透析室見学では、遠隔診療について説明いただきました。
このほか、カンファレンスの様子を見学させていただきました。

＼ 参加者の声 ／

- ✓ 放射線の測定器を初めて見たのでとてもよい経験だった。
- ✓ 新しく綺麗で、働きやすそうな病院だなと感じた。
- ✓ 震災後犬に噛まれるケースが増えるなど実際にいないとわからないことがあるとわかった。
- ✓ 遠隔透析の現場を見ることができて講義で得た知識とつながった。

医療従事者との懇談会



南相馬市内の食事処ニューさいとうにおいて、医療従事者と夕食を囲みながら和やかに懇談しました。

研修2日目（8月8日）

特別養護老人ホーム梅の香



参加者の声

- ✓ 入所者の方と楽しく会話できた。
- ✓ 施設の運営、経営の難しさがわかった。
- ✓ 利用者さんが生き生きとしており、生活しやすい環境だと思った。

医療と福祉の関係を学ぶため、特別養護老人ホーム梅の香を視察しました。大内施設長による講話や、スタッフの皆様から日々の業務などについて伺いました。利用者の方と交流させていただきました。

南相馬市社会福祉協議会 健康サロン



参加者の声

- ✓ 被災者の方から直接体験談を聞くことができた。
- ✓ 血圧測定に協力してくれる人が皆いい人だった。
- ✓ 利用者さん方とたくさん話ができ楽しかった。

南相馬市小高区住民向けの健康サロンに参加させていただき、血圧測定や住民の方々と交流をしました。





高齢者が地域で自分らしく生活していくための支援のあり方について、実際にあった事例を通して考えました。



参加者の声

- ✓ 医療と福祉の連携について考えることができた。
- ✓ 非常に貴重な経験であった。支援の仕組みを知ることができた。
- ✓ これからより多くの事例を見たい。



南相馬市小高区の地域医療を担う南相馬市立小高病院に伺いました。

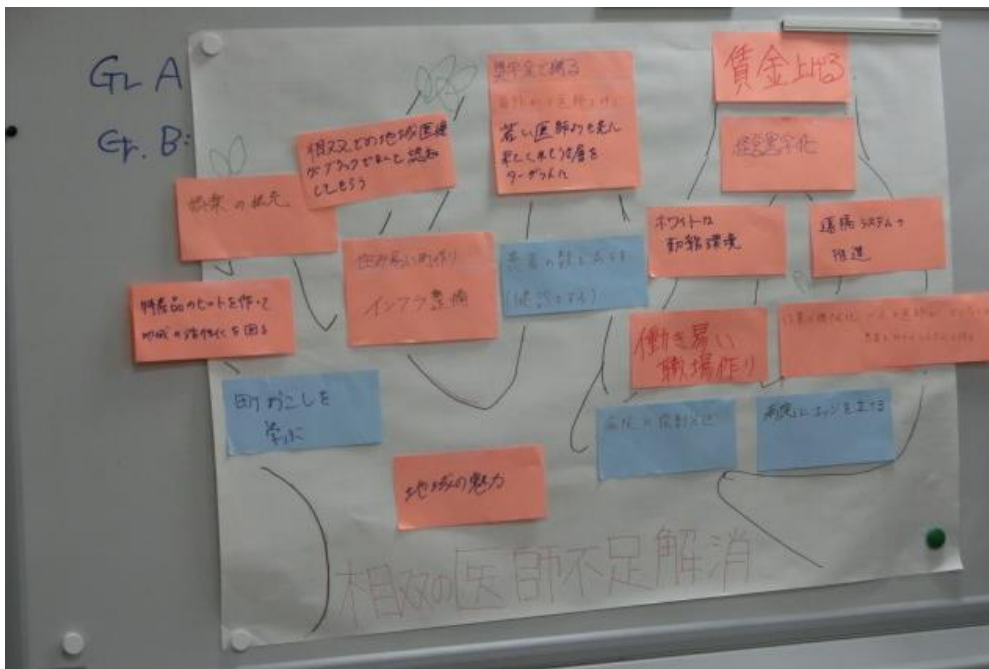
- 1 藤井医師よりご講話をいただきました。
 - 2 高橋医師による院内診療を見学しました。
 - 3 患者様宅と病院側に分かれて遠隔診療を見学しました。
- このほか、震災当時のまま残された箇所も含め院内の見学をさせていただきました。

KJ 法演習・グループワーク

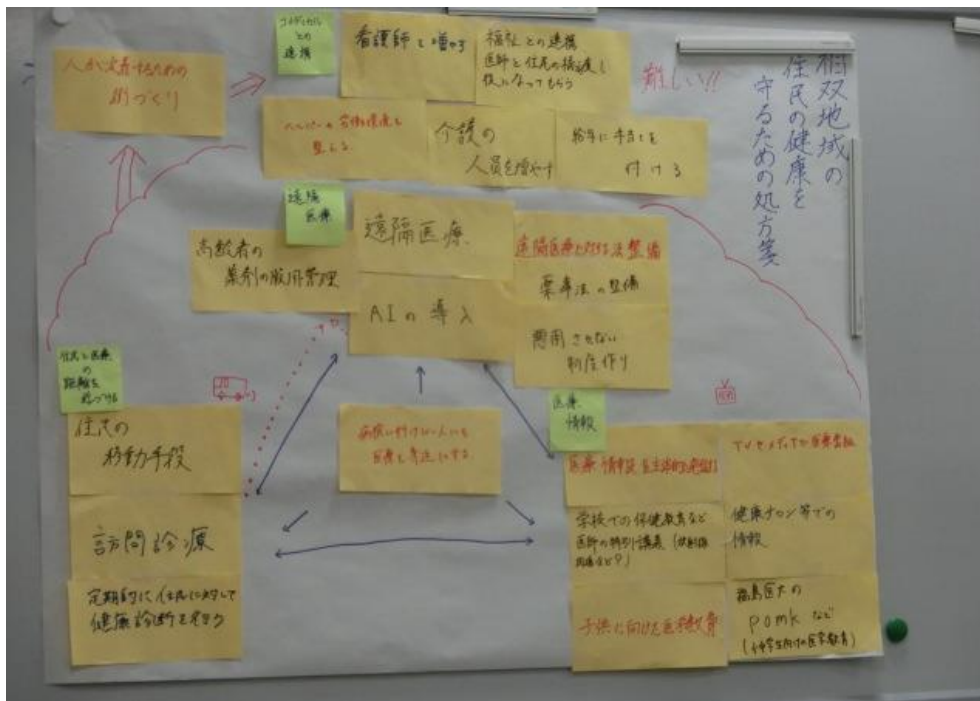


2日間の研修で学んだことを踏まえ、2グループに分かれてKJ法でアイデアを出し合い、その結果を発表しました。

グループ A 相双地域の医師不足解消のための処方箋



グループ B 相双地域の住民の健康を守るための処方箋



研修3日目（8月9日）

福島県ふたば医療センター附属病院

福島県ふたば医療センター附属病院において研修予定でしたが、台風13号接近のため、中止とさせていただきました。バスの車窓から外観のみ見学しました。

福島県立医科大学 課題のまとめ・発表



3日間の研修の総仕上げです。「今回の研修の感想」と「地域医療に必要とされる医師とは？」について、プレゼン資料にまとめて各自で発表し、質疑応答を行いました。



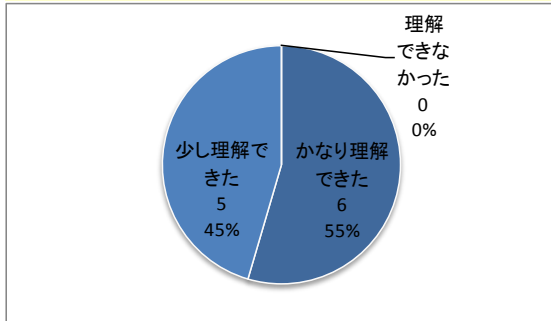
参加者の声

- ✓ 改めて経験したことを文章化したことで、より今回の実習を理解し、まとめることができた。
- ✓ 地域医療について必要な医師像について、案外個々人で考えにばらつきがあることが印象に残った。
- ✓ 他の人の発表を聞いて、自分が気づけなかったところに注目していてとても勉強になりました。

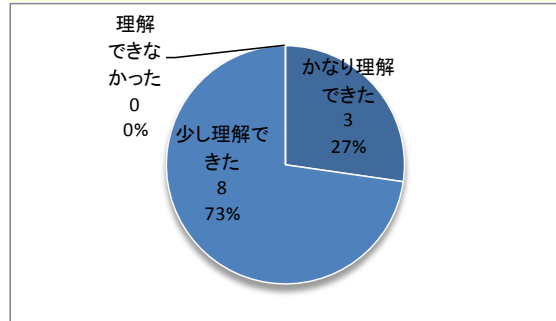
参加者アンケート

アンケート回答者 11名 / 参加者 11名

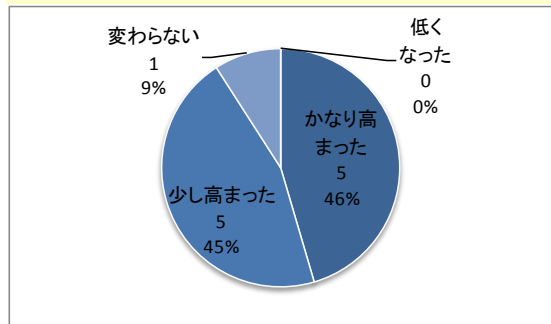
(1) 当地域の地域医療の実態を理解することができましたか。



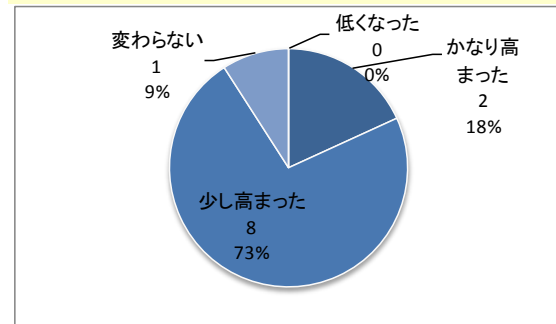
(2) 当地域の文化や住民の生活の実情などを理解することができましたか。



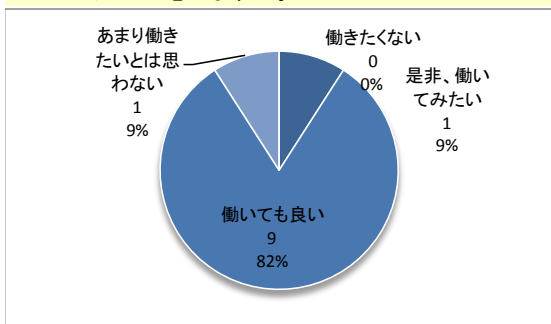
(3) 地域医療に対する関心は、以前よりも高まりましたか。



(4) 将来、医療過疎の地域での医療に関わってみたいという意識は、以前よりも高まりましたか。



(5) 今回訪れた地域で、将来、機会があれば、働いてみたいと思いますか。



参加者の体験レポート

今回お寄せいただいた体験レポートから一部を紹介させていただきます。この他にもたくさん
の意見・感想をいただきました。ありがとうございました。

今回の実習では、南相馬市をはじめ、相双地域にて地域医療の研修を行った。出身が
県外ということもあり、この地域は初めての訪問であったため、テレビや新聞など間接
的に見聞きしていたこととどのように違うのか実際に見てみることに大変興味があっ
た。普段はいろいろな施設に行き、職員やある一定の参加者のお話を聞くというよう
な実習が主だったが、今回の住民の住む土地、生活空間自体を知るという体験ができてよ
かった。

1日目には先生方のお話を聞き、今まで医師数1人あたりに対する人口で医師不足、
病院不足を考えていたが、面積に対して考えてみると住民にとっては医療が物理的に遠
いという実態がわかった。新たな視点であり、考えさせられた。また、実際に地域で働
いてみないと知ることのできないこと、例えば震災後には犬に噛まれる住民が増えた
ということがあり、実際に足を運んでみる、直接体感することが自分の中の地域に対する
関心を深めることにつながるのだと思った。

2日目には小高病院で慢性疾患の方の遠隔診療を実際に見させていただいたが、普通
の外来で受診する人よりも親近感があると聞いた。実際見ても思ったが、タブレッ
トで受診できるため、病院に行く必要がなく、医療との心理的距離が近いことが理由の
一つに挙げられるのではないかと考えられる。健康サロンや遠隔診療、訪問診療など、
住民と医療との距離を短くするとともに、精神的な健康にもつなげられる地域医療はこ
れから必要になるのではないかと思った。

2つのグループに分かれて行ったグループワークでは、相双地域において医師不足の
解消や住民の健康を守るためにはどうしたらよいかを話し合って発表した。医師不足
の解消にはより働きやすい職場を作ったりしていくことが挙げられた。しかし私は、その
地域で働こうと思う医師、振興を支えたり、住民に喜んでもらったりしたいという思い
がないと難しいと思った。私の意見としては、そこで働く医師に良い待遇を与えるより
も、過疎地域などの過酷な環境でも頑張れる医師を育てていくことが必要だと思う。今
回の実習もその一つとしてとても良い機会になった。次に、住民の健康を守るにはとい
う課題に対し、人材不足を補うのは難しいという意見が出た。まずは医療と住民との距
離を近くし遠隔診療を行うことで医療の効率化と身近さを高めていくことで、住民の暮
らしやすいまちづくりにつながり、人が集まるというサイクルを作ると良いと考えた。

以上の意見は実際に住民とお話をしたり、現状を見たりしなければ思いつかなかっ
たのではないかと思うので、大変印象に残る実習だったと思う。